

「美術の20世紀—豊かなる表現の時代」展

主 催：静岡県立美術館、滋賀県立近代美術館、
「美術の20世紀展」実行委員会
助 成：財団法人 地域創造
協 賛：J R東海
会 期：平成17年4月19日(火)～5月29日(日)
休 館 日：毎週月曜日
観 覧 料：一般・大学生 800円(600円)
小・中・高生 400円(300円)
70歳以上無料
※()内は20名以上の団体料金及び前売料金

本展は、当館と滋賀県立近代美術館が所蔵する作品によって、20世紀美術の魅力を再発見していただこうと企画したものである。すでに、両館は、平成12年(2000)に「日本画の情景—富士山・琵琶湖から—」と題して、室町時代から今日に至る風景表現を中心とした共同企画展を開催した。

今回は、20世紀という激動の時代の美術を様々な視点から探ろうとするもので、日本画や近代日本洋画を中心としながら、近年、注目されてきている彫刻と工芸、また同時代の西洋絵画からアメリカを舞台とする戦後美術に至るまで、幅広いジャンルの作品を紹介した。

また、本展は、時代順や作品の制作年順によって構成するのではなく、20世紀美術を特徴づける「8つのテーマ」を設けて、そこから作家の感性や表現にふれてもらうことを目指した。

■展示構成

- 第1章 日本における近代絵画の成立
- 第2章 画家の求めた風景
- 第3章 大正の細密描写—岸田劉生、速水御舟など—
- 第4章 ファシズムと戦争、人間性の希求
- 第5章 色の可能性、形の力
- 第6章 女性の時代・それぞれのアジア
- 第7章 触覚性の開拓
- 第8章 越境する美術

■カタログ

29.0×23.0cm

エッセイ

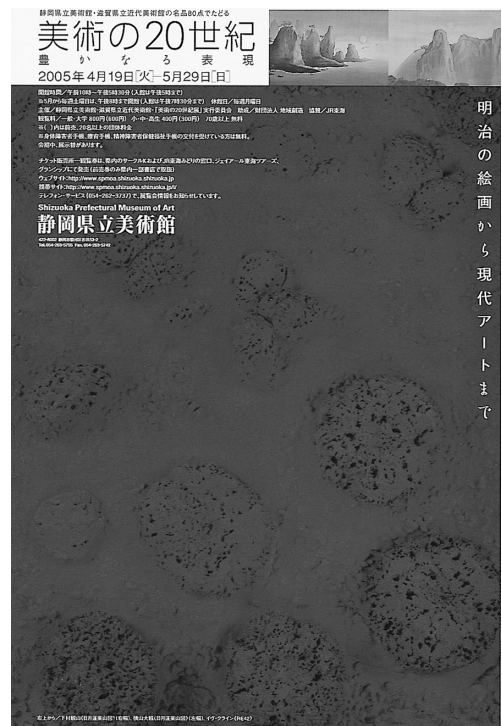
泰井良「美術の20世紀—豊かなる表現」

高梨純次「仏画らしくない幾つかの仏画—小倉遊亀の【信心】—」

占部敏子「バルラッハ随想」
川谷承子「絵画の触覚性」
村上敬「感性の古層を尋ねる旅—「越境する美術」への解題」

■関連事業

- ・特別講演会 5月4日(水・祝) 午後2時～
当館講堂
「20世紀美術の流れ—具象と抽象のせめぎあい」
本江邦夫氏 (多摩美術大学美術学部教授・府中市美術館館長)
- ・美術講演会 5月15日(日) 午後2時～
当館講座室
「滋賀県立近代美術館と小倉遊亀」
高梨純次氏 (滋賀県立近代美術館学芸課長)
- ・美術講座 4月29日(金・祝) 午後2時～
当館講座室 「美術の20世紀—豊かなる表現」
泰井良 (当館学芸員)
- ・学芸員によるフロアレクチャー
4月24日(日)・5月22日(日) 午後2時～ 展示室
- ・ミュージアム・コンサート
5月8日(日) 午後2時～ ロダン館 「20世紀の音楽—ヴァイオリンで奏でるファンタジー—」
演奏者：能登谷安紀子氏 (ヴァイオリン)、齋藤香織氏 (ピアノ)



▲ チラシ表紙